

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

## 沼津高架PIプロジェクト 原地区第3回勉強会 開催概要

4月20日（土）、原地区にて第3回勉強会が開催され、16人が出席しました。

勉強会の初めには、ステップ2の成果として「地域づくりの目標」が4月11日に公表されたこと、および、ステップ3に移行したことが報告されました。引き続き事務局から「戦略案（代替素案）の比較のための評価項目（案）」についての説明がなされ、これらについて、ファシリテーターの進行のもとグループ検討が行われました。

初めに、評価項目（案）に関する議論では、「避難路が確保できるか」について、建物の倒壊や火災等の危険も想定し、道路ネットワークとして見る必要があるとの指摘があった他、評価項目について初めて目にする人にも分かりやすく表現してほしいとの意見がありました。

地域づくりの戦略案（代替素案）については、原地区を「東側ゾーン（市街化区域）」、「西側ゾーン（市街化調整区域の沼川より南側）」、「北側ゾーン（市街化調整区域の沼川より北側）」の3つに区分し、それぞれについて議論が行われました。

これらゾーンのうち「東側ゾーン」については、寺社などの歴史文化資源を活かしたまちづくりを進めると同時に、これらの地域資源と原駅周辺、(国)1号と東駿河湾環状線の交差点周辺、松原の資源をつなぐことで観光客に回遊してもらい、相乗効果を高めるとの提案や、それぞれの地域資源をつなぐウォーキングルートなどの提案がありました。また、原駅から根古屋付近までの「中央部」を原の玄関口として位置づけ、新東名スマートICから中央部を南北に貫き原駅や海まで至る道を地域の軸線とすることなどの提案もありました。

「北側ゾーン」については、今ある自然を守りつつ、原IC周辺を原地区の観光や文化等の情報発信拠点とすることについて議論がなされ、隣接する西部浄化センター一帯を公園やビオトープとして整備し、原地区の自然を体験できる場とすることや、興国寺城跡から伸びる「矢通り」を活かしたウォーキングルートを整備することなどが提案されました。

「西側ゾーン」については、新たに整備を進めるゾーンとして、富士山の眺望を活かした食事の場などの観光スポットや、駐車場が必要との意見の他、雇用の場を設けて原の定住人口を増やす必要があること、また、雇用の場として、高齢者マーケットの拡大を見込んだ医療・福祉施設や、福祉関連産業を誘致することなどの提案がありました。このうち、貨物駅予定地となっている区域については、物流に関連する産業が周辺に集まることで原地区の活性化につながるのではないかと意見がありました。また、仮に貨物駅が原に来なかったとしたら、その場所に病院や高齢者向けの施設、小規模工場などの産業の他、グラウンドを整備することなどの提案がありました。

次回（5月14日（火））は、引き続き評価項目と戦略案（代替素案）について議論する予定です。